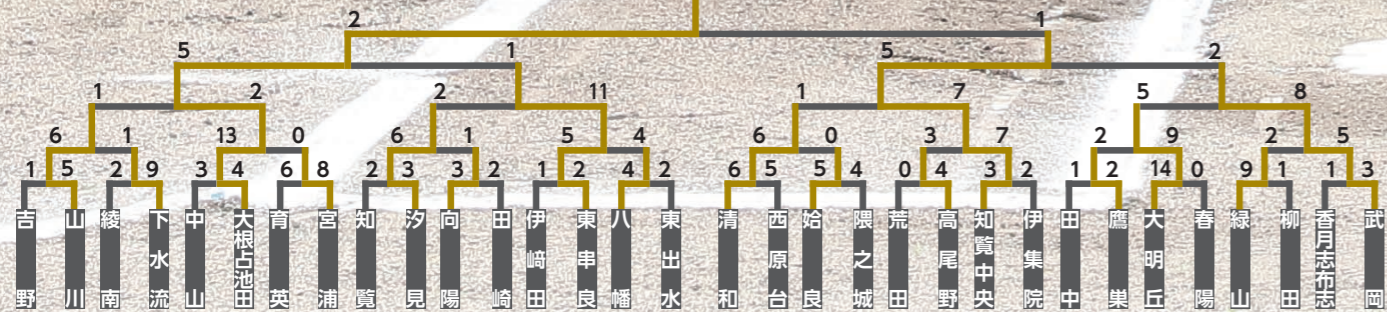




大根占ソフトボールスポーツ少年団は毎週木土日の週3回、総合運動公園グラウンドで練習している。時間は17:30から19:30まで2時間。見学や体験など気軽に参加できるのでぜひ参加してみてください。

大根占池田



特集 大根占池田ソフトボール合同チーム

仲間とつかんだ全国への初切符

大根占と池田のソフトボールスポーツ少年団合同チームが、県予選を勝ち上がり鹿児島県の頂点に立った。夢の全国切符をわずか13人の合同チームでつかみ取った選手たちへの取材から強さの秘密に迫ってみる。

県大会5試合を記録で振り返る

昨年11月28日、12月6日の2日間、霧島市の春山緑地公園グラウンドで開催された、「春季全日本・全九州小学生選抜ソフトボール鹿児島県大会」に錦江町から合同チームとして出場した大根占池田ソフトボールスポーツ少年団。各地区の予選を勝ち上がった並みいる強豪32チームを抑え、団員わずか13人の大根占池田チームが鹿児島県の頂点に立った。

本大会は5年生以下での出場が条件。しかし大根占は団員数8人、池田は4人と単独出場できず、今回初めて合同チームを結成して挑んだ。鹿児島県大会を制し合同チームとしては異例ともいえる全国への切符をつかみ取った快挙を、濱田晋作育成会長への取材から振り返る。

1回戦は優勝候補にも挙げられた中山と対戦。初回から1点先制されるも2回裏の攻撃で5番川越温翔が右中間へソロホームランを打ち出す。2回裏は川崎佑稀斗、9番笹原蒼葉が内野安打で出塁。守備の乱れもあり、この一回一挙4点を上げ逆転に成功する。守ってはエース川崎駿が強力打線を3点に抑える好投でいきなりの大一番を乗り切

切って好発進した。「65分の試合時間が何倍にも長く感じた」と初戦を振り返る濱田会長の表情からも、その緊迫した展開が伝わってくる。

続く2回戦は屋久島の宮浦に13得点を挙げ完封し、進んだ3回戦は11月の穎娃大会で敗れた山川と対戦。初回、悪送球から押し出して1点を先制されるも2回に5番川越、3回に1番川崎がそれぞれソロホームランを打ち逆転に成功。投手川崎が被安打1本、12奪三振を奪う好投で接戦を制し準決勝へ駒を進めた。

その準決勝では東串良と対戦。1回に内野安打で出塁した1番川崎を2番濱田虎牙が送り、5番川越の適時打で1点を先制。最終回には2番濱田、4番上玉利璃空が連続ヒットで出塁すると、またも5番川越がセンターオーバーで2点を追加。6番上園龍吾のツーランホームランでこの一回一挙4点を挙げ勝負を決めた。迎えた決勝は強豪知寛中央と互いに譲らない投手戦となった。動いたのは3回。ランナー2人を置いて、5番川越が左中間を抜く二塁打で2点を先制。最終回で1点を許すも、最後は4番得意のチェンジアップで打ち取り、全国切符をつかんだ。



チームの強さに迫る

1点を守り切る鍛えられた守備力
チャンスを確実に点数へとつなげる攻撃力

鍛えられた守備陣を信頼し
エース川崎超駿が全力投球

大根占池田の合同チームは5年生7人、4年生3人、3年生2人、2年生1人と少人数ながらも、コーチ陣やOBの熱心な指導と保護者の手厚いサポート、そして何よりもひたむきに練習に向かい、切磋琢磨する選手たちの努力が初の全国大会出場という偉業につながった。

県予選では5試合で26得点、失点はわずか6点と堅い守りが光った。1番川崎が出塁し、2番濱田が確実に送る。長打が自慢のクリーンナップがランナーをかえすが勝ちパターンと川崎明人監督は明かす。守ってはエース川崎と上玉利のバッテリーが三振の山を築く。上背はないがしなやかでダイナミックな投球フォームから繰り出される速球とライズに、得意のチェンジアップで緩急をつけたピッチングが持ち味。

「試合を重ねるたび課題だった制球力も安定してきた。得意の速球も以前にくらべ格段に重みが増している」と濱崎貴尋コーチも成長に目を見張る。先制点を守り切るチームの鍛えられた守備陣が、エース川崎超駿が全力投球

合同チームだからこそその相乗効果
チームワークはどこにも負けない

大根占小と池田小にそれぞれ通う選手たち。初顔合わせでは緊張した様子で自己紹介が始まったが、打ち解けるのに時間はかからなかった。「3年の濱田美羽は女子の仲間が増えたことで笑顔も多い。ほかの選手たちも会話が増えて試合や練習にも熱が入っている」と濱崎コーチ。選手たちは互いの距離を縮めようと積極的な声を掛け合う。合同チームだからこそその相乗効果に監督も期待を込める。

しかし両校は距離的に10キロ以上離れているため平日は単独練習。試合前だけ合同練習に切り替えて連携プレーを中心に確認する。全国出場を決めた5年生チームだが、その強さは6年生の支えも大きい。池田チームは6年生を6人そろえ、エース川原希菜を軸に肝属地区内でも有数の実力を誇る。その川原投手を中心とした6年チームが練習に胸を貸す。「試合前は6年対5年以下で試合を組んでもらい実践に近い練習ができた。少ない団員に

第15回春季全日本小学生男子大会

2022.3.26 - 3.28 参加チーム 48
北九州市立ひびきコスモス運動場



えられた守備陣だ。主将を任せられるシヨート小脇賢佑を中心にファースト濱田、セカンド川越、サード上園が鉄壁の守備を見せ、予選5試合をひとりで投げ切るエースを支えた。外野も守備範囲が広く、堅い守りで大量得点を許さない。「全国大会は初めての経験でみんな緊張する。声を出してチームをまとめた」と小脇主将は意気込む。

加え、コロナ禍で練習試合も思うように組めないのが助かる」とコーチ陣は周囲の支えに感謝を込める。OBも練習に駆け付け打撃投手や守備を買って出る。苦手とする左投手を想定し、本格左腕から繰り出される速球に食らいつく姿に強さの秘密が垣間見えた。少ないチャンスを確実に点数につなげる集中力が勝敗を左右する。監督は「まず1点。それを守り抜く」と冷静に見据えた。

大根占ソフトボールスポーツ少年団

ONEJIME 川崎 明人 監督

かわさき・あきひと
1972年に創立した大根占ソフトボールは、かつて「アストロ」の愛称で親しまれ今年で50年の節目を迎えた。自身も監督就任25年目となる。少年団活動を通じて挨拶と礼儀ができる社会人に育ててほしいと日々の指導に当たる。長男もOBでチーム運営を支える。川崎超駿投手は次男。錦江町馬場在住の45歳。



いよいよ始まる全国への挑戦

3月26日から福岡県北九州市ひびきコスモス運動場で始まる「第15回春季全日本小学生男子大会」。2008年に春の全国大会として創設され、各都道府県の代表48チームが全国の頂点を目指し熱戦を繰り広げる。先月20日には抽選が行われ、大根占池田チームはシード権を引いたため、2回戦で埼玉と福井の勝利チームと対戦することになる。

主将の小脇賢佑、副主将の濱田虎牙は「まず1勝。声を出して自分たちらしい試合をしたい」と口をそろえ、チームを引っ張ると力を込めた。県大会5試合を1人投げ抜いたエース川崎は「3位入賞を目指し全力投球で抑える」と前を向く。上園龍吾は「緊張したが周りの声で楽しくプレーできた。このチームで1試合でも多く出場したい」と意気込む。

合同チーム、わずか13人。まさに少数精鋭ともいえる大根占池田ソフトボールの挑戦が始まる。全国の大舞台はきつと子供たちにとって大きな経験として財産になるだろう。選手にとって応援は力の源。鹿児島を代表する13人が全国大会で完全燃焼できるように、町を挙げて応援したい。

全国大会に出場する大根占池田ソフトボールチームのメンバーを紹介

夢舞台に挑む少数精鋭の13人

3月26日から28日にかけて福岡県北九州市で開催される春季全日本小学生男子大会。「小学生男子」と銘打ってはいるが最大3人まで女子も出場できる。春の全国大会と呼ばれ、全国から集まった48チームが日本一を目指して熱戦を繰り広げる、まさに少年たちの夢舞台。



大根占池田ソフトボールスポーツ少年団
全国大会に挑む13名の選手と監督・コーチを紹介する



押領司 悠磨
(大根占小3年・外野手)
県大会は代打で出場できたときにヒットが打てなかった。もっと練習して、もし全国大会でバッターボックスに立てたらヒットを打ちたいです。大きな声で元気に挨拶して応援も全力で頑張ります。



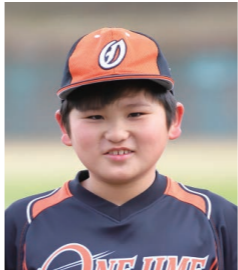
濱田 美羽
(大根占小3年・外野手)
あまり試合には出られなかったけど、ベンチから一生懸命応援しました。県大会の2回戦では少しだけ試合に出られて嬉しかったです。全国大会では応援とボール拾いを頑張る。ワクワクします。



森田 結衣
(池田小4年・外野手)
バッティング練習をしっかりしてヒットを打ち、守備では確実にとめて点数をとられないように守りたいです。もし全国大会で試合に出られたらヒットを打ちたい。初戦突破を目標に頑張ります。



笹原 蒼葉
(池田小4年・外野手)
県大会ではレフトとライトで出場しました。全国の舞台でも慌てずに、打球を確実に捕球して内野へ返すことを意識したプレーをしたい。バッティングでは仲間につなぐ打撃で勝利に貢献したい。



上玉利 璃空
(大根占小5年・捕手)
キャッチャーの立場から大事な場面こそみんなが慌てないように声をかけたいです。どんな球も体で受け止め盗塁も刺す。打撃ではチャンスを確実に点数につなげたい。初の全国を楽しんでいます。



川崎 昶駿
(大根占小5年・投手)
一番嬉しかったのはチーム全員で鹿児島ナンバーワンになれたこと。県代表として1試合でも多く試合ができるように全力投球で抑えます。目標は3位入賞。力を合わせて全力でプレーします。



濱田 虎牙 副主将
(大根占小5年・一塁手)
始めて池田と合同チームを結成し、副主将もまかされて不安でしたが、鹿児島県の代表を勝ち取れてとても嬉しかったです。チームを引っ張っていけるように率先して声を出していきたいです。



小脇 賢佑 主将
(大根占小5年・遊撃手)
県大会は全員出場で優勝できました。課題はチャンスで確実に点に結びつけること。全国大会ではまず初戦突破が目標。主将としてチームをまとめ自分たちらしい試合をします。必ず打ちます！



川崎 謙司 コーチ
(大根占池田ソフトボール)
選手にとって応援はなにより嬉しいパワーの源です。OBや地域の皆さんからはいつも力強い応援や支援をいただき感謝しています。選手を支え、皆さんに嬉しい報告ができるように頑張ります。



濱崎 貴尋 コーチ
(大根占池田ソフトボール)
子どもたちにとっても、合同チームとして出場する試合や日々の練習には大きな価値がある。目標に向かって取り組むことの大切さ、達成する喜びをコーチ陣も共有させてもらい嬉しく思います。



川崎 明人 監督
(大根占池田ソフトボール)
全国大会出場は監督25年目で初めて。子どもたちに恵まれたとあらためて感じます。保護者の協力、地域の応援にも感謝しています。全国の舞台で活躍することで恩返しできたらと思っています。



森田 早紀
(池田小2年・外野手)
ソフトボールを始めて1年10か月で試合に出たときは外野を守ります。守備もバッティングももっと練習して本番でその成果を出したいです。全国大会では大きな声で力いっぱい応援します。



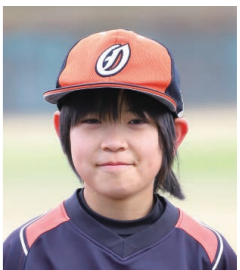
上園 龍吾
(池田小4年・三塁手)
県予選は緊張でドキドキでした。サードを久しぶりに守って不安だったけど仲間が声をかけてくれて楽しくプレーできた。全国では大きな声を出して、チームのためにひとつでも多く活躍したい。



押領司 ほたる
(池田小5年・外野手)
地区予選も県予選も緊張してバッティングも守備も思うような結果が残せなかった。このチームでプレーできる貴重な時間を大切に練習を続けたいです。全国大会では一生懸命プレーしたいです。



川崎 佑稀斗
(大根占小5年・外野手)
県大会の反省点はサインを1回で決められなかったこと。全国では確実に決められるように頑張ります。いつも応援してくれる人たちに全国で1試合でも多く勝って感謝の気持ちを伝えたいです。



川越 温翔
(大根占小5年・二塁手)
地区予選、県予選どちらもヒットを多く打てたことが嬉しかったです。特に県予選のホームラン2本は自信になりました。全国大会でも点数につながる自分らしいバッティングで勝ち進みます。